

4 章 関係者からのメッセージ

4.1 安全安心なまちづくりを目指した連携の成果～松山市の栄誉を祝して～

松山市自主防災組織ネットワーク会議

会長 蔭原 政徳

この度は、松山市ならびに松山防災リーダー育成センターが、「第 11 回ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」において、最高賞である内閣総理大臣賞を受賞されましたこと、誠におめでとうございます。松山市自主防災組織ネットワーク会議を代表し、心からお祝い申し上げます。



この快挙は、松山市が長年目指してこられた「安全安心なまちづくり」が実を結んだ証拠だと、私たち関係者一同、心から喜び、そして誇りに思っています。皆さんのこれまでの努力と、地域防災にかける熱い情熱が最高の形で評価されたことに、深く敬意を表します。

私ども松山市自主防災組織ネットワーク会議は、平成 20 年 6 月に地区連合会を統括する機関としてスタートし、平成 24 年 8 月には松山市の全 41 地区で自主防災組織を結成することが出来ました。現在は、市内自主防災組織連合会の地区代表者および防災士代表者で構成され、お互いの組織や関係機関としっかりと連携しながら、大きな災害が起きた時に本当に「動ける組織づくり」を目指し、地域の防災力を高めるために活動しています。

防災リーダーの育成については、松山市が平成 17 年から全国に先駆けて、防災士資格取得費用を全額公費負担する支援を始めた当初から、私たちも自主防災組織の中心となる人材を積極的に推薦し、防災士を育てることに協力してきました。令和 6 年 8 月末に防災士の数が全国の市区町村で初めて 1 万人に達したことは、松山市の防災力を象徴する偉業であり、私たちの大きな強みでもあります。

折しも、本年 3 月には南海トラフ地震の新しい被害想定が公表され、その甚大な被害の可能性に、私たちは改めて防災対策の重要性と緊急性を強く感じました。そんな中で今回の受賞は、私たちのこれまでの取組の方向性が正しかったという確信と、未来への大きな希望を与えてくれるものです。

今回の輝かしい受賞を新たなきっかけとして、松山市が災害により強く、市民がより安心して暮らせるまちになるよう、私たち松山市自主防災組織ネットワーク会議は、これからも松山市、松山防災リーダー育成センターと固く連携し、全力を尽くしていきます。防災士の皆さんの更なる活躍を後押しするとともに、地域住民一人ひとりの防災意識を高め、そして効果的な地区防災計画の推進に努め、それぞれの強みを活かしながら、松山市全体の防災力を盤石なものにしていく覚悟です。

この記念すべき受賞を心からお祝い申し上げ、今後のますますのご発展とご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

4.2 防災士フォローアッププログラムの継続を

日本防災士会愛媛県支部

支部長 小國 恵子

このたびは、ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）において、栄えある内閣総理大臣賞をご受賞されましたこと、心よりお祝い申し上げます。

これまでの松山市ならびに松山防災リーダー育成センターの取組が高く評価されたことに、防災士の一人として、また松山市民の一人として、深い喜びと誇りを感じております。

さて、私ども日本防災士会愛媛県支部は、平成 28 年 5 月に発足し、現在は 90 名余の会員で活動を行っております。

発足以来、社会福祉施設への災害対策計画の助言・指導、各種イベントでの防災啓発、自治体主催の防災訓練への参加など、愛媛県全体の地域防災力向上に寄与すべく、さまざまな取組を重ねてまいりました。

近年では、平成 30 年 7 月の西日本豪雨災害に際し、西予市への迅速な支援活動を展開したほか、今春発生した今治市の大規模山林火災においても、他団体と連携し、焼失家屋の撤去支援を行うなど、新たな活動にも取り組んでおります。

なかでも、私たちが特に力を入れているのが、松山市が推進する「全世代防災教育分野の防災士フォローアッププログラム」における 4 つの講座「防災訓練・研修の企画と実践」「災害時のトイレ対策」「HUG（避難所運営ゲーム）」「リアル HUG」の運営です。

このうち「リアル HUG」は、実際の災害発生時を想定し、避難所の開設から初動対応までを実践形式で学ぶ講座です。参加する防災士がその場で役割を決め、建物の安全確認、避難所のレイアウト設計、さらには多様な背景を持つ避難者の受け入れ対応まで、現場さながらの対応力が問われます。

参加者からは、「少人数での対応や情報提供の難しさを痛感した」「毛布の配布一つにも配慮が必要だと気づいた」「“今できること”を後回しにしない重要性を学んだ」など、多くの気づきや学びの声が寄せられています。

このたびの受賞にあたり、私たちの活動が一端を担えていることに誇りを感じると同時に、その責任の重さも改めて自覚しております。

今後も、県内全域に広がる防災士ネットワークを生かし、地域の防災リーダーとしてふさわしい知識と技能の研鑽に励むとともに、松山市および松山防災リーダー育成センターと連携し、地域防災力のさらなる向上に努めてまいります。

結びに、松山防災リーダー育成センターのさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。



イベントでの防災啓発